



林業とくしま

使おう 県産材!



写題；木霊こだま（樹木に宿るとされる精霊）＜写真提供 上勝町 田中貴代さん＞

もくじ（林業とくしま282号）

◇私の森づくり..... 2	◇森林林業技術情報..... 10
・山下 修さん（三好郡東みよし町）	・スギの実大強度試験「吉野川流域のスギを構造材に!!」について
◇がんばる若手リーダー..... 3	◇県産材の需要拡大に向けて!..... 12
・藤谷 将行さん（美馬市）	・「森を木づかう住宅資金制度」が始まります。
◇現地だより..... 4	◇県林業改良普及協会だより..... 13
・東部圏区域（徳島）	・亀井会長が徳島ロータリークラブ例会で卓話
・西部圏区域（美馬）	・おすすめの一冊!本の紹介
・南部圏区域（美波）	◇県林研だより..... 14
◇林政の窓..... 6	・林研グループ中国・四国ブロックコンクール開催される
・森林認証制度の概要	◇阿波だぬき..... 15
◇特集..... 8	◇広告..... 16
・「徳島県森づくりコンクールの結果報告」	



No. 282

2007・10

「私の森づくり」

三好郡東みよし町

山下 修 さん



今回は、東みよし町中庄にお住まいの山下修さん（六十九才）を紹介いたします。

山下さんは、三加茂町役場在職時に三加茂町森林組合の（故）谷幸一氏に出会い林業に興味を持ち昭和四十五年頃より所有林の拡大造林を進めるとともに、昭和五十年には山林を購入し小規模ではありますが林業経営に取り組んでおられます。

所有面積は、六・五haでほとんどが人工林となっています。その内訳は、杉二・五ha、桧三・〇ha、クヌギ一・〇haとなっています。

■選木育林施業との出会い

経営目標については「長伐期大径木生産」を目指しています。これは選木育林施業との出会いから始まりました。

選木育林施業は、元徳島県林業専門技術員であった杉山宰氏が考案した技術で、将来に残す優勢良木に印付けを施し、経営目標を明確にするとともに、間伐施業を容易にする技術です。

山下さんは、この技術を積極的に取り入れ、杉山氏の指導により結成された「三加茂町選木士会」に加入するとともに、会員とともに技術の習得に励みながら昭和五十六年には「選木士」の認定を受けられています。

平成十三年には搬出間伐に取り組み二・二haで二四〇㎡の搬出間伐を実施しています。その内一・〇haについては、六〇〇本/ha（印付け木）

のみを残した「選木育林早期仕上げ間伐」を実践し収穫材積の増加による経営の安定を目指しています。また、一部に調査区を設定し継続的に成長量等を調査し当該技術の地域での更なる定着を図ることにしています。

■林業経営には林道管理が不可欠

所有林には、約二〇〇m/haの簡易作業道が開設されており搬出経費の低コスト化に取り組んでいます。林業経営にはこれと併せて所有林に繋がる林道の管理が不可欠です。しかしながら、これには、多様な人々が関わるほか多大な経費を要するのが常です。そこで、町内の関連する三路線について、林道管理組合の事務局長として組合員による草刈りや町役場からの資材提供によるコンクリート舗装等、効率的な林道管理を推進し地域の林業経営基盤の強化に



尽力されています。

■「間伐せんでか」一声運動の推進

今後は、搬出間伐を中心に林業経営に積極的に取り組むとともに、自分自身が林業経営に興味を持った経験を生かし、所属する「東みよし町三加茂選木士会」のメンバーとともに間伐の遅れている森林所有者を対象に『「間伐せんでか」一声運動』を実践し、地域が一体となった森林整備を推進し、林業活性化の一助になればと語っておられました。

〈西部圏城区（三好）〉

㈱ウッドピア

藤谷将行さん

美馬市木屋平地区の森林の適正管理や生活環境の保全を図る担い手集団の育成と地域の活性化を目的に、平成六年に設立された第3セクター「㈱ウッドピア」で活躍されている青年林業士でインターンの藤谷将行さんをご紹介します。

また、同じく「ウッドピア」で若手リーダーとして活躍してこられた谷内雅昭さんがご家庭の事情により今年九月に退社されましたことも遅ればせながら併せてご報告します。

◇谷内さん、徳島で林業に携わってこられての感想は？

「この縁があり、平成十二年に大阪からインターンし、㈱ウッドピアにおいて、徳島の林業の世界に身を置きました。それから七年、微力ながらも林業の仕事に関わらせて頂きました。この度、家庭の事情で帰阪することとなりました。沢山の人に支えられてやりがいのある仕事をさせて頂き、また山村での家族六人の充実した生活を送ることができました。徳島での林業で学んだことを、大阪に帰っても生かしたいと思えます。今後の林業の発展を願っております。

また、今後の「㈱ウッドピア」にもご支援賜りますようお願い申し上げます。本当に心よりありがとうございます。ありがとうございました。」

◇谷内さん本当に長い間ご苦勞様でした。大阪に帰られましてもご活躍されますことを願っております。それでは、同じくウッドピアで活躍されている青年林業士でインターンの藤谷将行さんをご紹介します。



藤谷将行さん

◇まず、こちらへ来るようになった経緯を教えてください。

「私は兵庫県の西宮の出身で、こちらへ来る前は大阪の会社にいました。しかし仕事が多忙で、帰宅はいつも子供が寝た後でした。こうした生活に疑問を持ち、もっと自然の中で暮らしたいということもあって、兵庫県に近い四国での仕事を探して

ていました。

そして、徳島県の県森連に電話したところ、こちらの会社を紹介していただいたので平成十一年の七月に入社しました。」

◇最初はどの様な仕事でしたか？

「山の境界測量をする仕事で、所有者境界を測量し、そのデータをGIS（地理情報システム）へ入力することをやっていました。その後、現場に配属され、おもに間伐作業をやっていました。」

◇山仕事をやっていて特に気を付けていることはありますか？

「やはり安全対策には気を遣います。現場は足場の悪い所も多いですし、チェーンソーなど刃物を使う仕事ですので、事故の無いように心がけています。」

◇その後の仕事は？

「平成十七年からは製材部門に替わりました。柱や板、タル木など注文に応じて様々な製品を作る訳ですが、木は真つ直ぐな様に見える微妙に曲がっていたり、一本一本性質が違いますので、それを見極めて、いかに効率良く木どりをしていくのが難しいところであり、また面白いところでもありますね。」

◇色々な部門を経て、現在は総務部に在るわけですが、今後の抱負をお聞かせください。

「この会社に入社して約九年にな

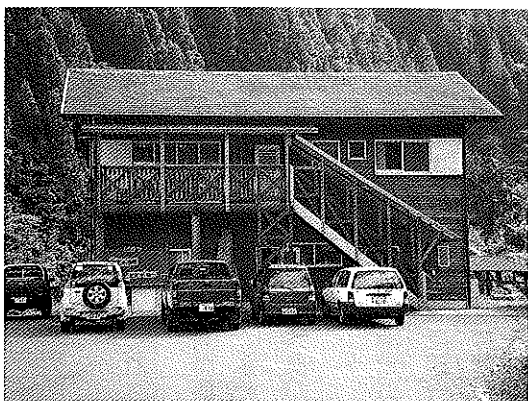
りました。これまで、おもに県や市の仕事を請け負ってやって来たわけですが、いつまでもこうしたことが続いていくとは限りませんので自ら仕事を作り出し、自立していける会社を目指したいと思っています。」

そのためには、山から生産された材の価格が決められるのではなく、少しでも付加価値を付けて、こちらが主体となっていけるような体制を取りたいと考え、昨年には「SGEC」（森林認証）を取得しました。

こうした認証制度などを利用して、今後も様々な事業展開を図っていきたいと考えています。」

◇「㈱ウッドピア」で、がんばる若手リーダー藤谷将行さんをご紹介します。

〈西部圏城区（美馬）〉



㈱ウッドピア

現地だより

林業普及現場からの情報コーナー

【東部圏区域（徳島）】

上勝アートプロジェクト

（里山の彩生）

上勝町では、十月から徳島県で開催される国民文化祭への企画活動として、スギ間伐材によるオブジェづくりに取り組んでいます。

材料の間伐材は、地元の方々が切捨間伐の施業地から小型ウインチを使って運び出し、皮むきなどの加工をほどこしたものです。オブジェづくりも、県内外から招いた著名なアーティストとともに、地元の方々がおこなっています。

町では、このプロジェクトにより、小型ウインチや簡易架線で簡単に間伐材が搬出できることを実感してもらい、搬出間伐が進むことを期待しています。

また、今回の作品は十年間展示しつづける予定で、すべての間伐材に

防腐・防

虫処理を

ほどこし

ています。

展示しつ

づけるこ

とにより、

間伐材で

あっても

しつかり

とした処

理をおこ

なえば耐

久性があ

ることを

実証しよ

うとする

ものです。

町では、

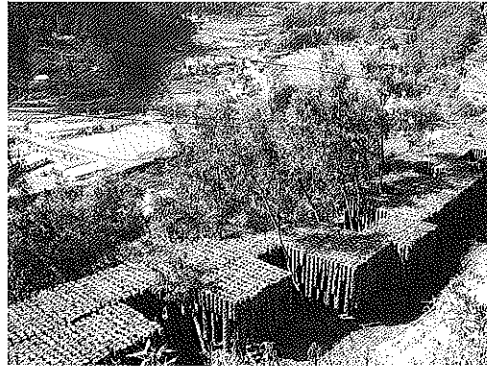
このア

トプロ

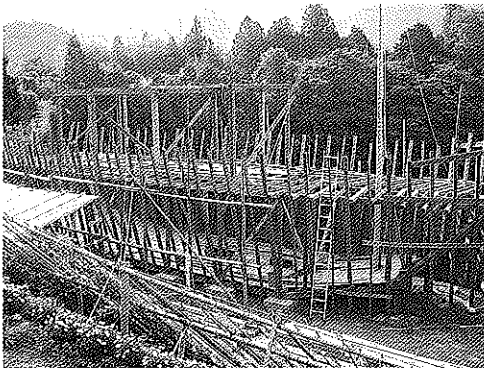
ジェクト



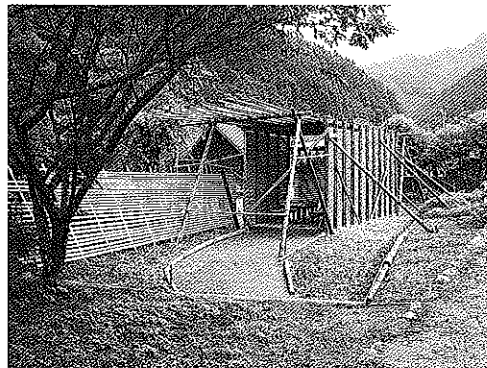
正木地区（瀨神の塔）



旭地区（もくもくもく）



傍示地区（いて座造船所）



福原地区（タイム・ブリッジ）

への一万人余りの来場を見込んでおり、鑑賞者に、森林環境の保全と間伐材の有効利用をアピールしていきたいと考えています。

上勝アートプロジェクトに、みなさんも是非お越しください。

【西部圏区域（美馬）】

美馬郡木材協同組合に

新たに原木選別機導入される

去る九月二十二日（土）美馬郡木

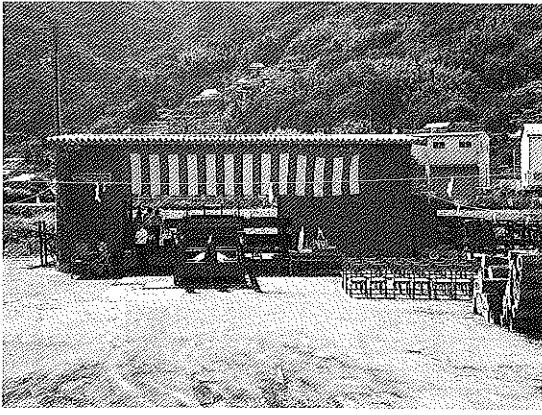
材協同組合において、新たに導入された原木選別機の落成記念式典が行われました。

美馬郡木材協同組合は、地元の製材業者などが出資してできた組合で、美馬市穴吹町の国道195号線から少し入ったところにあり、原木市場を運営しています。

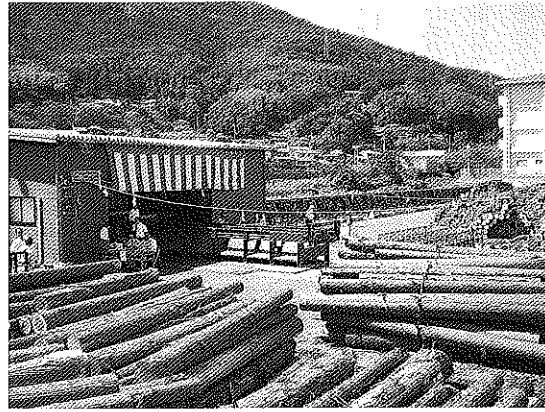
貯木場は道を挟んで二つに別れ、第一貯木場は八、一〇六㎡、第二貯木場は六、九〇六㎡あり、月三回のペースで市を開いています。

かつて、この市場は「マツ」が大きなウエイトを占め、多いときは取扱い樹種の約四割を占めていたこともあり、遠くは関西からも買い手が来ていましたが、現在はスギ、ヒノキが中心となっています。

当日は午前十時より特別感謝記念市が行われたのち、落成記念式典が行われ、季節はずれの残暑にもかかわらず、多くの参加者があり、美馬郡木材協同組合の住友専務理事の



導入された原木選別機械



美馬郡木材協同組合

「開会のことば」に始まり、「設備概要報告」「神事」などがありました。今回導入された自動原木選別機に

ついでには全長が約七六mで、三方向からCCDカメラを使い二十三種類の選別が可能となっています。可能材長は三〜四m、径級は五〜五〇cmまでです。

同組合ではおもに、美馬管内や川島管内から材を搬入していましたが、年々取扱量が低迷している状態にありました。しかしながら、これからは美馬森林組合が三点セットを導入したこともあり、山土場でなくこの選別機を利用してA、B、C材の仕分けをし、ここからまとめてクレストへの搬送を計画していることから、間伐材の増加が見込まれ、取扱量の回復が期待されています。

【南部圏区域（美波）】

林業飛躍プロジェクト研修会

新間伐システムのさらなる発展に向け南部総合県民局（美波）では九月五日、研修会を開催しました。

参加者は、当管内で搬出間伐に携わっている森林組合職員と作業班長、町担当者が出席しました。また、先進的な事業展開をしている徳島中央

と美馬の両森林組合からも二名、講師として参加していただきました。最初に、管内森林組合から昨年の取組に対する反省点や改良点を述べて貰い協議しました。

続いて、両講師から採算性向上のための事業地の選択方法として次の重要なポイントを示していただきました。

①除間伐等手入れの届いた山を選び団地化する。林道や作業道を適正配置し新間伐システムを効率的に稼働させる。②所有者を作業完了後に山へ案内し、作業内容への理解と満足を与える。③標準地を設定し調査結果から搬出予定数量を算出する。④採材方法として、元玉の曲がりや切り落とし中目材では直材を採る。

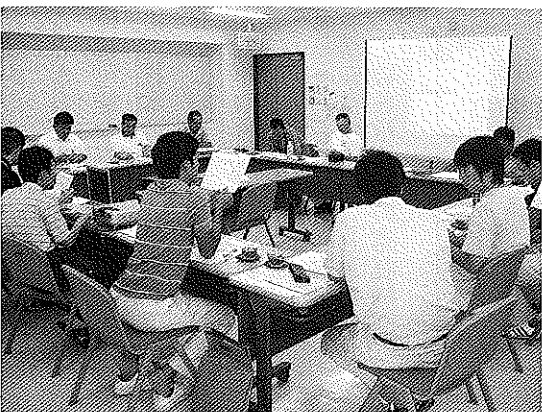
さらに、木材の有利販売については、直材とB級材、運賃等も比較検討した事例紹介により、常に販売先を念頭に置いた経営意識を持つことの重要性を教示していただきました。

最後のディスカッションでは、①事業地の確保と所有者の列状間伐への理解・反応②搬出間伐の考え方の③間伐材積の把握と採算性及び事業地毎の見積・設計④販売方法の検

討と還元金という内容を中心に全員で協議しました。

参加者は、一方的に聞くだけでなく積極的に自分の意見や経験談を述べ、疑問点があれば確かめるなど、予定時間を超過して活発な意見交換が行われました。

「林業再生プロジェクト」は、平成十九年度から「林業飛躍プロジェクト」へとステップアップしましたが、参加者もこの研修を契機に、さらにステップアップし、今後も目標に向けた取組みをしていただけたらと思います。



林業飛躍プロジェクト研修会

森林認証制度の概要

林業振興課 森林政策担当

1 はじめに

平成十九年五月、内閣府において「森林と生活に関する世論調査」が実施され、この中で、国民が今後、森林の働きに期待する項目の中で最も回答の多かったのは「地球温暖化防止に貢献する働き」でした。

前回までの調査で継続して第1位の回答だった「山崩れや洪水などの災害を防止する働き」を抜いており、近年の国民の森林の働きに対する意識の変化が表れています。

このように、森林は多くの機能を有していますが、その機能を持続的に発揮するためには、今後も持続可能な森林経営を推進していくことが必要となっています。

そのためには、消費者が日頃から意識して木材製品を利用することが重要であるとともに、消費者が使用する木材を選択する意思を持つこと、

そして木材を選択できるような会を設けることが重要であり、その選択する方法の一つとして、世界的に「森林認証」の取り組みが進められています。

また、日本では「グリーン購入法」いわゆる「国等による環境物品等の調達の推進等に関する法律」が平成十八年二月に一部変更され、その基本方針に、国等が率先して合法性の確保された木材を使用することが盛り込まれておりますが、その証明方法として国内外の「森林認証」制度が掲げられております。

今回は、この制度について簡単に説明します。

2 「森林認証制度」とは

森林認証制度は、独立した第三者機関が一定の基準を基に、適切な森林管理や持続可能な森林経営が行われている森林や経営組織を認証する

とともに、それらの森林から生産された木材・木製品をラベリングすることにより、消費者の選択的な購買を通じて持続可能な森林経営を支援する仕組みです。

3 認証機関

主な認証機関としては、FSC（森林管理協議会）とPEFC（森林認証プログラム）の二機関が、環境保全の観点から見て適切で、経済的にも持続可能な森林経営を推進することを目的として、それぞれのシステムにより国際的な認証活動を展開しています。

ただ、世界の森林を対象とするFSC等の基準は、日本の森林の特徴である急傾斜で、所有規模が小さく、また人工林の割合が高いな

4 S G E C 認証制度

ど国内の実情にそぐわない点があることから、世界的に推奨されている持続可能な森林管理の考え方をもとに、日本独自の森林認証であるSGEC（緑の循環認証会議）が、平成十五年六月に設立されています。

このSGECの認証制度には、持

(主な森林認証の概要)

認証の名称	概 要
F S C	<ul style="list-style-type: none"> 1993年WWF（世界自然保護基金）を中心に発足 欧州、アメリカ、アジア地域など世界的規模で森林認証 日本国内では23団体、27万haの森林を認証（H19.2月現在）
P E F C	<ul style="list-style-type: none"> 1999年欧州11カ国の認証組織が設立 主にアメリカ、欧州などの地域で世界の森林面積の約5%を認証
S G E C	<ul style="list-style-type: none"> 2003年日本の林業団体、環境NGO等により発足 人工林の割合が高いこと、零細な森林所有者が多いなど我が国の実情に即した制度を創設 認証森林は41団体、39万ha（H19.3月現在）

続可能な森林そのものを認証する「森林認証システム」と、加工・流通過程で認証された森林から生産された木材を分別・表示することを認証する「分別・表示システム」の二つがあります。

この内、森林認証システムは、日本の森林管理のレベルを向上し、豊かな自然環境と持続的な木材生産との両立を保証するシステムで、七つの基準と三五の指標からなっており、

審査や認証作業は、日本森林技術協会など三機関で行っています。

5 認証の状況

世界主要地域の森林認証とその割合は、次のとおりです。

世界的に、約七％の森林が認証を受けていますが、地域別にはアメリカ地域で約三〇％、欧州地域で約一〇％の森林が認証されており、この動きは加速される傾向にあります。

日本では、FSCとSGECを合わせ、森林面積の約三％が認定されています。

6 本県の認証状況

国内では、FSCやSGECに認証された森林から生産された木材で住宅が建築され始めており、ある県では、SGECの「分別・表示システム」認証を受けた建築会社が主要構造材に認証木材を使用した住宅を建築している事例があります。

業体がSGECの認証取得を予定しています。

今後は、グリーン購入法における合法材や持続可能な材の調達は一般取引にも徐々に波及することが考えられ、森林認証や分別・表示認証へ対応する必要性が高まっていることから、森林認証制度の普及に向け、関係者等への情報提供に努めていきたいと思います。

(単位：万ha)

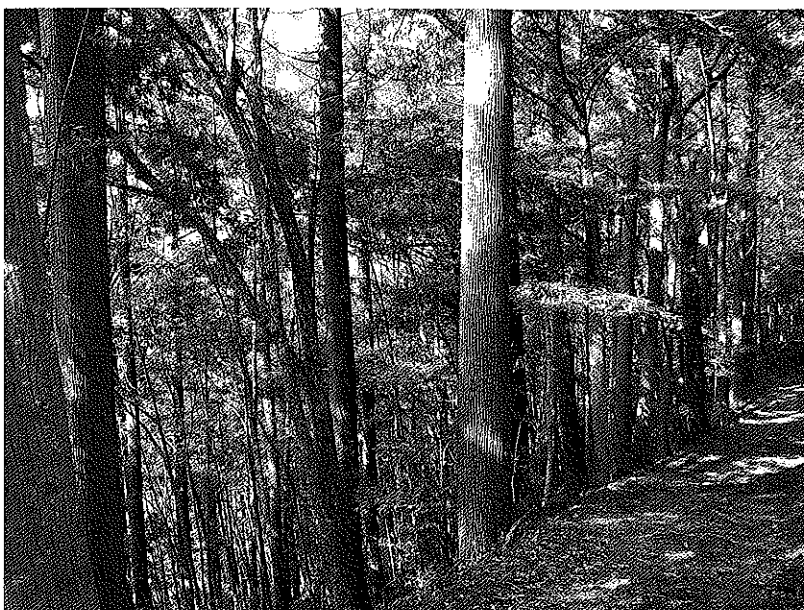
区分	FSC	PEFC	SGEC	備考
アジア地域	164	—	39	
内日本	27	—	39	
アメリカ地域	3,639	13,452	—	
オセアニア地域	117	855	—	
欧州地域	4,653	5,822	—	
世界総計	8,813	20,130	39	
割合	2%	5%	2%	

※FSC、PEFC：世界の森林面積に占める割合、SGEC：日本の森林面積に占める割合

※世界の森林面積：386,945万ha、日本の森林面積：2,512万ha

本県では、平成十八年九月、美馬市の第三セクター(株)ウッドピアが、八二一haの森林について県内初のSGEC「森林認証」を受けるとともに、これまでに六社が林産物の「分別・表示システム」の認証を受けています。

また平成十九年度においては、複数の森林所有者や林業事



認証対象森林・林相

「徳島県森づくりコンクール」の結果報告

林業振興課 普及調整・森づくり担当

はじめに

本コンクールは、地域の模範となる適正な森林整備と効率的な生産活動の普及啓発を推進するとともに、林業者等の林業収入の増大と林業技術の向上を図り、森林の多様な機能の持続的な発揮に寄与することを目的に毎年開催されています。

今年度は、県の重要な施策として取り組んでいる「林業飛躍プロジェクト」が推進されていることもあり、

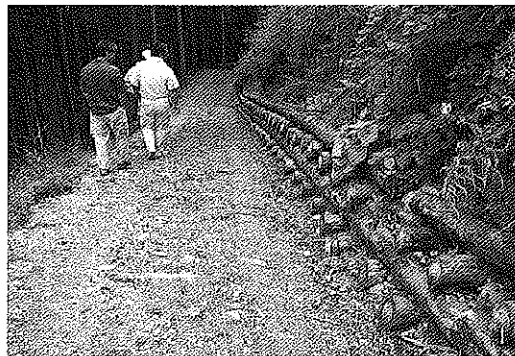
路網整備や機械化による低コストな林業生産活動等に積極的に取り組んでいる間伐団地等を表彰する「生産の部」から六件の応募がありました。いずれも地域の模範となる優秀なもので、二件が知事賞に、三件が後援団体会長賞に選ばれました。それぞれに独自の取り組みがありましたので、その一端をご紹介します。

◎知事賞 つるぎ町 実平団地
(代表 仲野博仁様)



間伐実施状況

・団地内の所有者別の面積測量を行うとともに作業道の開設も行い、同時に搬出間伐に適した林地は積極的に働きかけを行っている。団地は、林道から下へ細長い地形であるため搬出には難しい団地であったが、斜面をジグザグ蛇行しながら作業路を降ろすとともに良材のある箇所へは、ヘヤピン部から支線を出すなど集材に適した路網配置により労働生産性の向上が図られている。



作業路開設状況

◎知事賞 三好市 西井川団地
(代表 宮内明治様)

・三好東部森林組合の管轄地域内において、最も積極的に搬出間伐に取り組んでいる団地で、地元林業研究グループなどによる現地研修会や森林所有者への働きかけ活動により、隣接に約二〇haの搬出間伐が計画されている。



作業路開設状況



間伐実施状況

◎県森林組合連合会会長賞 吉野川市 月野団地(代表 河野利英様)
・零細規模が多い森林所有者への積極的な働きかけにより、集団的な搬出間伐が実施されるとともに施

行地が県道沿いにあり、列状間伐の見本林として、地域への波及効果が期待される。また、搬出作業も残存木を傷つけることのないように作業道が効果的に配置されている。



作業路開設状況



間伐実施状況

◎県森林組合連合会会長賞 那賀町 黒野田団地（代表 松葉 規様）
・大規模森林所有者中心の少人数で構成された団地が多い当該地域の中で、比較的小規模の所有者への理解



作業路開設状況



間伐実施状況

を取り付け団地化を推進している。また、当該団地の実績により隣接所有者へも波及し、約8haの搬出間伐が計画されている。

◎県林業改良普及協会会長賞 上勝町 川西団地（代表 石本芳照様）

・既設の作業道を活用した効率的な路網配置により、作業路の新規開設延長を最小限に抑えて搬出経費の削減に努めている。団地の隣接所有者にも搬出間伐を積極的に働きかけており、来年度以降も計画的な搬出間伐が計画されている。



間伐実施状況



作業路開設状況

おわりに

これらの入賞事例が、多くの森林所有者等林業関係者に広く認識され、林業飛躍への起爆剤になることが期待されます。

なお、表彰行事については、知事賞は、十一月二十三日（金）に開催予定の「未来を守るとくしま森林づくり県民のつどい」で、また後援団体会長賞は、十月十三日（土）に開催される「山と木と緑のフェアー2007」のオープニング式典で表彰されます。

スギの実大強度試験

「吉野川流域のスギを構造材に!!」について

徳島県立農林水産総合技術支援センター 森林林業研究所 木材利用担当
徳島県西部総合県民局(美馬) 林業振興担当

一 はじめに

美馬流域におけるスギ人工林は、標準伐期齢を超える面積が六九%に達し大半が利用可能な森林資源として充実しつつあります。また、林業飛躍プロジェクトによるスギの生産量が増加しているためスギの利用と販路の拡大が重要な課題となっております。

そこで、吉野川(美馬)流域林業活性化センターが実施主体となり、梁・桁等構造材へのスギ利用を進めるために、美馬流域のスギ材の強度を実証することを目的とした平成十八年度「吉野川流域のスギを構造材に!!」利用開発推進事業が行われました。

当流域(地域)における木造住宅の多くは、横架材にベイマツ、柱等にヒノキが使用され、スギは主に内装に用いられています。スギが強度的に優れた性能を有しながらも、構造材として十分な使用に耐えうることで建築業界や消費者等に正しく伝わっていないことが現状にあります。

二 強度試験

また、実際に流域のスギがどの程度の強度性能を有しているのか、試験データもなく普及のあい路となっております。試験データに基づく強度の信頼性を確保することができれば、新たにスギを構造材に利用する需要を生む機会でもあります。

今回、この事業を実施するに当たり、西部総合県民局(美馬)林業振興担当と当研究所が共同で強度試験に携わりましたので紹介します。

二 強度試験

強度試験は、供試するスギを美馬市木屋平八幡の林地を選定し、三二本の立木(平均林齢三六年生)を選木しました。選木したスギは立木段階から、丸太、製材品に至るまでのヤング係数を追跡し、最終段階の曲げ破壊試験において、製品としての品質・性能を確かめると共に流域の貴重なデータを取得することができました。

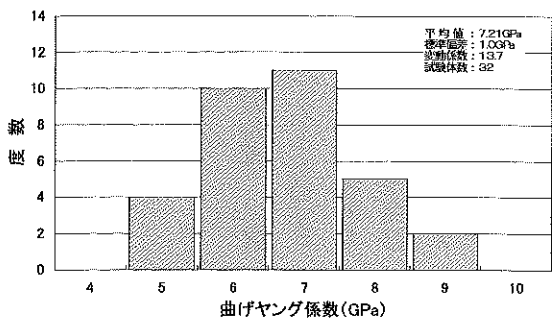
選木した立木の製品までの工程は、伐採後、九〇日間の葉枯らし乾燥の

のち、長さ四メートルの丸太に玉切り、平角材(幅一二センチメートル、厚さ二四センチメートル、長さ四メートル)に製材しました。製材後、倉庫内で七〇日間自然乾燥を行い、製品として供試しました。

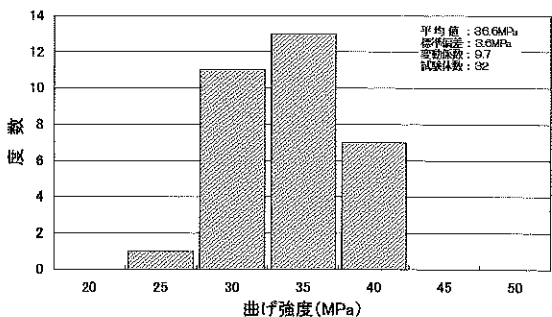
なお、供試した材は、株式会社ウッドピアが「緑の循環」認証会議により、県内初の認証を受けたSGEC森林認証材となっております。

図一は、実大強度試験機を用いて載荷した平角材中央のたわみから算定した曲げヤング係数の頻度分布を示しました。平均値は七・二一ギガパスカル、変動係数一三・七パーセントで、これまで過去に実施した徳島スギの強度試験結果※(平均七・二七ギガパスカル〔資料〕技術情報カードNo.八)とほぼ同程度の値が得られています。(※林齢四六年生、七六年生)

図二は、同じく曲げ破壊によつて得られた最大荷重から算定した

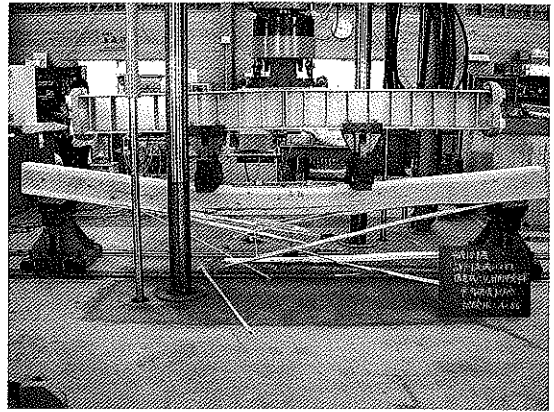


図一 曲げヤング係数の頻度分布



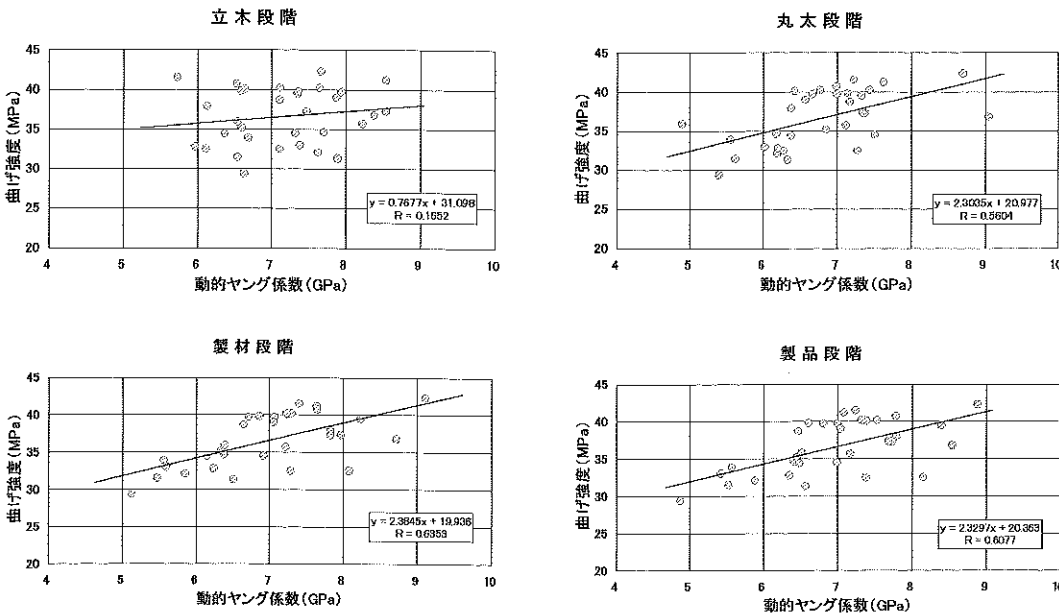
図二 曲げ強度の頻度分布

曲げ強度の頻度分布を示しました。平均値は三六・六メガパスカル、変動係数九・七パーセントとなりました。同様に過去の試験結果(平均三七・〇メガパスカル)と比べても同程度の値が得られています。また、変動係数を比べたところ、バラツキは幾分小さい範囲に収まっていたと言えます。写真一は、実大強度試験機を用いた曲げ破壊試験の状況です。強度評価として建築関係では、許容応力度(木材に加わる曲げや圧縮などの外力に対して、破壊しない安全な強度)を統計的処理で誘導する方法が用いられています。少ない試験体数でも強度的安全性を示す指標として、現在「信頼水準七五パーセ



写真一 曲げ破壊試験状況

ントの五パーセント下側許容限界」が広く一般的になっていきます。今回の試験データをこれにより算定すると、曲げ強度下限値は三〇・〇メガパスカル（ニュートン毎平方ミリメートル）となります。建築基準法施行令第九五条に規定される木材の材料強度は、告示により無等級材の基準強度が二二・二ニュートン毎平方ミリメートルとなっており、これを大きく上回る結果となりました。また、同告示の機械等級区分E七〇の基準強度である二九・四ニュートン毎平方ミリメートルを満たしていました。



図三 各段階のヤング係数と曲げ強度の相関

三 C T、F F Tアナライザの相関性
曲げヤング係数の数値が大きいか
ど曲げ強度が高いことはよく知ら
れた相関関係です。つまり、たわみに

くい材は、強い曲げ性能を持つてい
ます。ヤング係数の測定には載荷方
法以外に、ハンマーによる打撃を測
定する方法(動的ヤング係数の測定)
があります。この測

定方法は、簡易なた
め、現場での活用が
期待されます。

図三は、この方法
で立木段階から製品
段階までを追跡調査
し、製品の曲げ強度
との相関を示しまし
た。(立木段階はC
T〔ツリー・チェツ
カー〕、丸太から製
品段階はF F Tアナ
ライザの測定器を使
用しました。)

相関係数(R)〇・
五を中程度の相関基
準とした場合、丸太
段階から製品段階に
おいては相関係数
〇・六の高い相関関
係が得られました。
しかし、立木段階の
相関係数は、測定器
の不具合により補正
を行ったため、正し
い数値が得られませ
んでした。

四 まとめ

今回の強度試験により良好なデー
タが得られ、統計的処理に基づく数
値が実証されたことで、この地域の
スギが構造材として十分な利用が可
能であることがわかりました。

特に、最近では品質規格の明示な
ど製品性能に対する信頼性が求めら
れるようになり、平成十八年度に創
設した徳島県木材認証制度(産地認
証、品質認証)では、信頼性の高い
徳島すぎ構造材の販路拡大を目指し
ています。そのために、今後も必要
な強度データを日常的かつ永続的・
安定的に集積し、整備していく必要
があると思われま

【引用文献】

- 「吉野川流域のスギを構造材に!!」
利用開発推進事業報告書(2007)
- ◇吉野川(美馬)流域林業活性化
センター

県産材の需要拡大に向けて!

「森を木づかう住宅資金貸付制度」が始まります。

林業振興課木材生産流通担当

徳島県内で生産された木材を利用して住宅を建てることは、徳島県の森林を守り育てることから、水源のかん養や県土を災害から守るなど、森林の持つ多くの機能を発揮させることにつながります。

また、木材には二酸化炭素を貯蔵する役割があり、地球温暖化防止にも役立つことから、木造住宅は第2の森林ともいわれます。

今回、徳島県では多くの方に県産の認証木材を利用した木造住宅を建てていただくための新しい住宅資金貸付制度「森を木づかう住宅資金貸付制度」を創設しましたのでご紹介いたします。

①対象となる住宅

認証木材（産地認証）を利用した次のいずれかの住宅です。
・新築、建売

認証木材を梁・桁に100%使

用する住宅

または、認証木材の使用割合が全体の50%以上の住宅。

・リフォーム、増改築

認証木材の使用割合が全体の50%以上の木質化リフォーム又は増改築。

②貸付を受けられる方

次の要件を全て満たす方です。
・県内で自ら居住するための住宅を建設、リフォームされる方。
・対象住宅を県内に本店の所在する業者に

よって建築される方。

・徳島県勤労者住宅建設資金を併用しない方。



③貸付の内容

認証木材使用住宅（新築、建売）	認証木材使用リフォーム
上限金額 2000万円	上限金額 900万円
貸付金利 当初10年間	平成19年10月時 2.3%
<p>※資金お受け取り時の金利が適用されます。 金利は毎月10日に県のHPに掲載します。 11年目以降は、お取り扱い金融機関の定めによります。</p>	

④取扱金融機関

阿波銀行、徳島銀行、四国銀行、徳島信用金庫、阿南信用金庫、四国労働金庫、徳島県信用農業協同組合連合会、徳島県信用漁業協同組合連合会

⑤その他

詳細については、上記金融機関若

しくは県庁林業振興課木材生産流通担当（電話〇八八一六二一―二四四八）までお問い合わせください。

認証木材とは

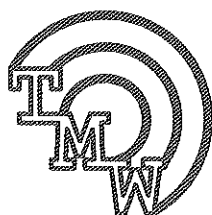
消費者の皆さんが安心して木材を利用するための、木材の産地や品質を知ることが出来る「徳島県木材認証制度」により証明された木材です。

証明の種類は三つ

一 産地認証
徳島県内の森林で育成し、合法的に伐採された木材であること
二 品質認証

県内の工場等で製材・加工された合法木材で、品質性能が一定基準であること

三 合法性の証明
合法的に伐採されたことを証明するもの



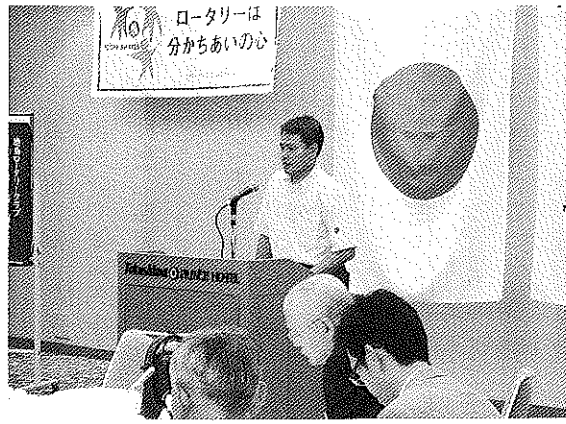
徳島県木材認証機構
認証木材のマーク

認証木材を利用した

マイホームを応援!

徳島県林業改良普及協会だより

当協会の亀井会長が徳島ロータリー クラブの十月例会で卓話



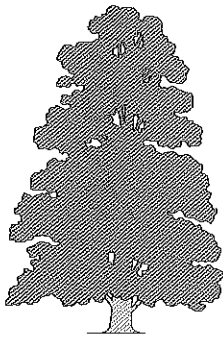
亀井会長森づくりについて卓話

十月三日、徳島プリンスホテルにおいて開かれた例会に招かれ、氏が日頃から考えている「森づくり」についての講演をしました。

冒頭、平成十六年に相次いで来襲した台風とその被害の凄まじさを写真集によって説明、また身をもって体験した避難の状況の詳しい話がありました。

その上で、従来の針葉樹一辺倒の造林から広葉樹の人工林、針広混交林の造成に転換し、自らの経験をもとに「災害に強い森づくり」を実践していることを説明。さらに、平地ではとても想像できないシカの被害対策にも頭を悩ませていることも披露しました。

会場からは、山村社会の深刻さを感じ取っておられた様子でした。



おすすめの一冊です！本の紹介

「山を豊かにする木材の売り方
全国実践例」 遠藤日雄 編著

筆者のいう本書の課題は、「山村が今の実情から脱却して豊かになるためには、立木価格を上げなければならぬ。立木の伐採収入によつて、その一部を家計に回し、残りを再造林に充てるにふさわしい立木価格を実現しなければならぬ。どうすればいいのか。」とここからスタートしています。

本の構成は大きく分けて、第一部「基本的な事項の解説編」そして第二部は「山を豊かにする木材の売り方実践編」の二部となっています。

第一部では、「木材の売り方が変わる」として、木材価格、木材・住宅市場の動向がどのように変化しているのか、問題は何かを、いくつかのデータで読み取ってみる。これらを解説したうえで、経営の目標を何処に置くかというまとめをしております。

第二部の実践編では、北海道から

九州まで各地で実践されている事例を、都道府県の担当者また関係者の報告として取り上げられております。この中では、本県からも「The 山師」「もくさん」「あじさい木工」「Tウッドハウス」が紹介されています。

森林所有者、林研グループ、林業事業体など林業関係者の皆様に、ぜひ読んでいただきたい一冊です。

山を豊かにする木材の売り方 全国実践例

遠藤日雄 編著

発行所：(社)全国林業改良普及協会

定 価：3,360円 (税込み)

申し込みは、

(社)徳島県林業改良普及協会まで

TEL 088-652-5406

林研グループ中国・四国ブロック コンクール開かれる

恒例の標記コンクールが七月二十五・二十六日の二日間にわたり高知市において開催されました。本県からは、二月八日に開いた県林研主催の実績発表大会で優秀グループとして選ばされた「那賀川こまち」が参加しました。

「那賀川こまち」は、ふるさとの山々が手入れされることなく放置されているのを見て、「女性でも何かできるはずだ」という思いで、平成十五年に結成された比較的新しい女性林研グループです。そしてその精神は、林業に関わる女性相互の連携を密にし、林業技術の研修を重ね、女性の立場から健康的な山づくり、さらには女性が輝く地域づくりを目指して活動することを旨としております。

当日は、林業生産活動や地元の中・高校生を対象とした体験学習な

ど、日頃の活動状況をスライドを使って発表しました。

コンクールでは、中国・四国ブロック代表九グループが体験談や将来の夢などを熱く語り、今後益々の活躍が期待されました。

審査の結果は、竹炭の生産・販路開拓を通じた地域との交流をテーマに発表された、山口県長門市の女性グループ「長門市どんぐり」が、二十年二月に東京で開催される全国林業グループコンクールに、ブロック代表として発表することになりました。

「那賀川こまち」は、残りグループと同様に「地域林業の活性化に向けてさらなる活動の充実を期待しております。」との評価を受けました。

次年度のブロックコンクールは、鳥取県で開催されます。



発表する橋本延子会長



全林研会長賞を受賞

日本の偉人 二宮金次郎

川島農林事務所
主査兼林業推進係長

徳永



最近、二宮金次郎の本をいくつか読み、大変感動したので、少しご紹介いたします。

二宮金次郎（二宮尊徳）は、一七八七年、小田原藩の栢山村に生まれました。十四才で父を亡くし、十六才の時には母も亡くして大変な苦勞をしました。さらに、自家の田畑も酒匂川の洪水で石だらけの荒地地になつてしまいました。

しかし、金次郎は、持ち前の勤勉さにより、荒地地を元の田畑に戻したばかりでなく、庄屋や武家などで働いて賃金収入を得て、新たに田を購入していき、三才のときには、約四町歩の田を有する村で二番目の地主になっていました。

その後、小田原藩の家老の家の仕事をしていたことから、借金が増え危機的状况になつていた家老の家の再建を頼まれて再興し、この実績が評価され、藩主大久保忠真から小田原藩の桜町領（現在の栃木県の一部）

の復興を命ぜられ、その復興を成し遂げただけでなく、周辺の村々の再興をも助け、天保の大飢饉のときには、何万人もの人の命を救つたのでした。

彼は、博識である一方、何より実行を重視した人であり、大變意志の強い人でした。

二宮金次郎の生涯には、よい藩主、彼の農村復興事業をことごとく妨害する藩士、彼の説得によりその財産を人々に譲る大地主や豪商たち、怠惰な生活から勤勉な生活へと変わつていく人々など実に様々な人々が登場してきます。彼らが、実在した人物であるだけに、人の生き方について非常に考えさせられるものがあります。

金次郎は、人々が、きちんと生活し、幸せに暮らすためには、たとえ現在が厳しい状態であつたとしても「至誠」、「勤勞」、「分度」、「推讓」の4つを実行していけば何も心配す

ることはないと教えています。

みなさんも日本の偉人、二宮金次郎の本を読んでみてはいかがでしょうか。必ず得るものがあると思います。

「二宮金次郎の一生」三戸岡道夫著
「二宮翁夜話」福住正兄著

茂呂戸志夫現代語訳

森の揭示版

◇県では、本年度から「林業飛躍プロジェクト」に取り組んでいます。「林業の再生から飛躍へ」皆様のご理解とご協力をお願いします。

◇「とくしまの林業」の表紙を飾る写真の提供をお待ちしています。（自然豊かで、美しい徳島の森林景観や林業作業の様子など、徳島の森林・林業に関する写真）

◇皆様からのご意見・ご感想もお待ちしております。

（林業振興課 普及調整・森づくり担当）

電話

〇八八（六二二）二四五八

FAX

〇八八（六二二）二八六一